

アグリカレッジ福島

福島県農業総合センター農業短期大学校

令和7年度長期就農研修

NEWSLETTER (10・11月合併号)

12月1日からの令和8年度長期就農研修生の募集に向けて、今回は現研修生から、次年度受講希望者へのアドバイスを伺いました！ぜひ最後まで御覧ください！

現地見学会（個別）を開催しています！



現在、令和8年度長期就農研修の受講を希望する方から、問合せが多数来ております。相談内容に応じて個別に日程調整を行い、現地見学会も行っております。

見学をした受講希望者からは、「見学した際に、現研修生がとても楽しそうに説明をしてくれたので、私もアグリカレッジ福島で研修を受講することを決めました。」「自分の中では

現地見学会（個別）の様子 ※農林事務所から誘導され来校

就農後の品目はまだ決まっていますが、だからこそ、農短大で様々な品目（野菜）を栽培し、販売まで挑戦することで、最終決定をしたいなと思いました。」「全くの素人なので、他の認定研修機関（先進農家等）に行きご迷惑をおかけするよりも、ここで様々な「失敗」を経験し、自信をつけたいなと思いました。」などの感想が聞かれました。

研修の受講を迷っている方は、見学時に受講を決める必要はないので、まずは「情報収集」のつもりで、現地見学をしてはいかがでしょうか。



現地見学会（個別）の様子 ※自分で情報を見つけて来校

令和8年度長期就農研修受講希望者へのアドバイス



県南就農コーディネーターと意見交換
(写真左：I氏)

(私は農地や作業場、住居もいちから見つけるところからスタートしたので)就農先市町村が見つかるまでは、福島県一周旅行をするくらいのフットワークの軽さが求められる。

また就農先市町村は具体的な地域まで選ぶことが必要である。地域が決まれば、例えば地元のお祭りに参加するなど、地域住民と信頼関係を築くことが重要である。

もし就農後の品目(野菜)が決まっていない場合は、まずは単価が高いもの、そして自分が食べたい、好きな品目など、複数挑戦してみることをおすすめする。研修の中で、自ずと自分に合った品目が見えてくる。

アグリカレッジ福島の長期就農研修は、自分自身で課題を見つけ、自主的に研修に取り組む必要がある。もちろん分からないことや困っていることに対し相談にはのってくれるが、あくまでも受け身ではなく、自分で行動をおこし経験や人脈を増やす必要がある。



職員に熱心に質問し、説明を受ける様子
(写真右：大河原幸枝氏)

アグリカレッジ福島研修部が主催する就農研修や農業機械研修は、座学や実技もあり、農作業における知識が増えたり、「なぜそうするのか」といった根拠が理解できたりするので、積極的に参加することをおすすめしたい。



かん水作業（写真：渡部佑樹氏）

自分は農業でどれくらい稼ぎたいのか、まずは（売上の）目標金額を決めることが重要である。
金額が決まれば、何をいつ栽培し、どこに販売するのかといった事業計画を作成することができる。

この長期就農研修をとおり、農業には正解がないことを教えられた。面白いというワクワク感がある一方、自分に合った栽培方法を見つける大変さも痛感した。最初は調べるのが大変だが、多くのことをこの研修で学んでほしい。

農業は1人ではできず、人脈の重要性を実感した。例えば研修中にわからないことは、師匠となる農家を見つけ、いろいろと教えてもらった。また就農後の販路についても、知り合いの伝手を頼った結果見つけた。



うね立て作業（写真左：O氏）



職員と意見交換（写真右：佐々木寛史氏）

同じ作物でも品種によって売れ行きや栽培方法が異なる。また同じ品種でも時期が異なれば、売れ行きや栽培方法が異なることを、この研修をとおして学んだ。R8年度の研修を目指す皆様には、地元の農業者の栽培技術をよく観察し、有意義な研修となるようしっかり計画を立てることをおすすめする。